

みんな大好き グミ！

— ドイツの国民的駄菓子 —

診察が終わると、先生が「いい子に診察を受けられたね」とデスクの上の小さな器のふたを開け、赤や黄色のカラフルな小さい熊“グミベア”を口の中に放り込む・・・20 世紀ドイツの小児科の記憶です。（注 1）

ドイツでは、スーパーやドラッグストアだけでなく、劇場の売店、空港など様々な場所でこのカラフルなグミベアが売られています。ヨーロッパ諸国のスーパーマーケットではその国の言語に翻訳されたパッケージに入ったグミベアがあり、最近では日本でも様々な場所で見かけます。いわゆる日本の「グミ」よりやや硬めのこのグミベアは、ドイツ発祥のお菓子です。

1922 年に HARIBO 社がドイツのボンで熊の形をしたゼリー菓子として“グミベア”を発売し、ドイツ国内からヨーロッパへと広がりました。ぬいぐるみに“クマ”が多いこと、クマは発売時の首都、ベルリンの象徴であることなどからクマ形の“グミベア”は、子供達の人気を獲得し、広まったのではないのでしょうか。

ドイツの“グミ”メーカーは、HARIBO 社だけではなく。“Katjes”（写真 1 左上のユニコーンのパッケージ）といった企業もスーパーで見ることができますが、グミを“HARIBO”と呼ぶほど、浸透しています。

HARIBO のグミですが、同じベア型のグミにも、淡い色のもの、酸味のあるもの、イチゴなど独自のフレーバのものなど様々な味があり、また、グミベア以外にも数えきれないくらいの種類のグミが製造販売されています。最近では、ベジタリアン、ヴィーガン、ハラルなどもあるようです。



写真 1



写真 2

お菓子なので、甘いものを想像しますが、意外に酸味の強い“Sour”が多くあります。様々な種類のグミの Sour タイプがこちら（写真 2）です。グミベアの Sour タイプもあります。かなり酸味が強く、子供向けというより、大人の気分転換用に思えます。

グミベア誕生から 100 年を超えた今、ドイツ人は皆、幼い頃にグミベアを食べて育ったといえるでしょう。そういった大人の郷愁を誘う酸味の強いグミなのかもしれません。

HARIBO のメーカー直営店舗はドイツ各地に 17 件あります。バイエルン州では、ミュンヘンにも一店舗あります。東京駅地下のお菓子ランドの各

店舗のようなワクワクする場所だと言えます。HARIBO のあらゆる製品を袋や容器だけでなく、量り売りで買うことができたり、キャラクターや文房具などのグッズがそろっていたりします。

駅の売店やスーパーで簡単に見つかる HARIBO, ニュルンベルクメッセにご来場の際には是非探してみてください。



注1) 21 世紀の小児科では、虫歯、アレルギーなどの観点から、診察室で子供にお菓子を与えることはしていないようです。